

ベータ遮断薬は心臓血管系のイベントを低下しない

従来ベータ遮断薬は、心筋梗塞後の治療の標準と考えられてきた。

本研究は、**Reach** レジストリーと言われ、14,043 人の以前に心筋梗塞をおこした人、12, 012 人の心筋梗塞をおこしていないが虚血性心疾患のある人

18, 653 人の冠動脈疾患のリスクファクターをもつ人の 3 群に関してベータ遮断薬の服用と心臓血管病発症との関連を調べた。心臓血管病による死亡、心筋梗塞の発症、脳卒中の発症を主要エンドポイント（評価項目）とし、二次エンドポイントは、主要エンドポイントに動脈硬化性イベントや血行再建手術のための入院を加えた。

平均 44 ヶ月経過を観察した結果、ベータ遮断薬の使用は 3 群のいずれにおいても心臓血管病のイベントの減少とは関連しなかった。

この事実から、米国、ヨーロッパの治療ガイドラインで、冠動脈疾患に対するベータ遮断薬の推奨レベルが下げられている。

（出典：Journal of American Medical Association 2012;308:1340-1349）